

E エッセイ
ssay.**子どもたちが、
日伯を結ぶ未来の架け橋**NPO法人ABT豊橋ブラジル協会
副理事長
田辺 トヨヒト

私は日本に来て今年で22年になります。8年前に日系ブラジル人自助組織のABT豊橋ブラジル協会（ABT）が設立された当初から、ブラジル人と豊橋市民との多文化共生のため、様々な支援や活動をしてきました。

これまで豊橋には多くのブラジル人が出稼ぎのために来日し、ピーク時には約1万3千人が豊橋に住んでいました。しかし、2008年のリーマンショックによる世界不況により労働状況が一変、更にその状況が立ち直り始めた2011年3月11日に東日本大震災が起き、ブラジル人を取り巻く環境は大きく変わりました。

出稼ぎに来ていた人たちはいつか祖国に帰るという意識が漠然とありました。しかし仕事が激減したことで時間ができ、これまで後回しにしていた家族や将来のことに向き合うようになり、その結果、多くのブラジル人が祖国への帰国を選択しました。現在、豊橋に住むブラジル人人口はピーク時の3分の2に減少しています。その多くは、日本で定住していくと決断した人たちです。その決断により、子どもたちの教育について真剣に考える人が増えました。子どもの教育は大変重要なことだと思っています。

私はブラジルで生まれ育ちました。両親は生粋の日本人で、子どもの頃、父親から「お前は日本人だ。いつかは日本に帰る。」とよく聞かされており、ブラジルにいても日本人だという意識がありました。現在3人の子どもの父親で、彼らは日本で生まれ育っています。

子どもたちには日本とブラジルをつなぐ架け橋として、豊橋にふさわしい人材に育って欲しいと思っています。私が小学生の時、先生が「君たちは日本とブラジルの架け橋になるんだよ。」と仰ったことが、親になり、今、ようやくその意味が分かるようになりました。私の親の世代、約13万人の日本人（1世）が移民としてブラジルに渡りました。1世はブラジルで勤勉に働き、信用を得て、ブラジルの発展に貢献してきました。今、2世・3世は日本に戻り、豊橋の地域社会に根付いています。そして次の世代である3世、更に4世の子どもが豊橋で育っています。

ブラジル国籍の子どもは日本の小、中学校での義務教育の対象ではありません。そのため地域の学校に通っていない子どもが沢山います。また通っていても、言葉や文化の壁もあり、途中で中退する子

どももいます。非常に残念なことです。ABTでは、小学校に入学するブラジル国籍の子どもを対象に、ブラジルとは違う日本の小学校のルールを教える「プレスクール」を実施し、安心して小学校に通えるように支援しています。また、昨年度までの3年間は「虹の架け橋事業」で、不就学の子どもに日本の言語や文化を教え、再度入学できるようサポートをしました。更に、学校の授業について行けない児童生徒たちのために、ABT事務所で授業後の学習支援もしています。

子どもたちのルーツであるブラジルの文化や言語を伝えることも大切です。私の子どものように、日本で生まれ育ったためにポルトガル語が得意ではない子どものために、ポルトガル語を学べる機会を提供しています。また新たな事業として、ブラジルの学校を中退した人のために、通信教育で学校卒業資格が得られる認定試験「SUPLETIVO」にも取り組んでいます。

地域の中で多文化共生を進めることは、豊橋にとっても様々なメリットがあります。特に子どもたちの影響は大きく、ブラジル人と日本人の子どもが一緒になって学び、子どもの頃から違う国の文化に触れることは、国際性豊かな人材に育つことでしょう。

浜松、豊田、岡崎にもブラジル人が多く住んでいますが、豊橋はどの市にも近いので、私はこの恵まれた立地を活かして、豊橋を未来のブラジルと日本をつなぐ中心にしていきたいと思っています。地域の皆様のご理解やご協力をいただきながら、今後もABTは、未来を担う子どもたちの教育や地域の多文化共生に力を注いでいきたいと考えています。



プレスクールで日本の小学校のルールを学ぶ子どもたち